

令和5年度 江戸川区立下小岩小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	自ら考える子・自ら学び他者と協力して課題を解決する子 心豊かな子・多様性を認め他者と共に生きる優しさをもつ子 たくましい子・何事にも自ら挑戦しようとする前向きな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	元気に登校、楽しく生活、満足して下校できる 笑顔あふれる学校 みずからチャレンジ 笑顔がややく 下小岩の子 チームとして協働し、互いに切磋琢磨する教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> <課題>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 ・教科担任制の導入 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	・週2回授業支援アプリを活用した学習タイム(東京ベシーッドリル補習)の実施 ・学年間教科分担制の実施 ・民間と連携した補習教室の活用 ・学習規律の徹底 ・黒板掲示カードを活用した問題解決的な学習の実施	・実施率100% ・全学年で教科分担制の実施(交換授業) ・ベシーッド診断Aと比較しBの定着率10%アップ ・補習活用100% ・児童肯定的評価80% ・実施率100%	A	A	・各学年が診断テストを実施し個人カルテを作成した。 ・カルテを基に、週2回の学習タイムで東京BDに取り組んでいる。(5年生は紙、2、3、4、6年はドリルパーク) ・5年生は1学期に比べ、2学期の診断テストは平均点が1割以上アップすることができた。 ・新たな取組として、①九九習得のために、給食準備中などに九九暗唱テストを行う。②単元テスト後に振り返りの時間(1時間)を確保し基礎基本の定着を図る。	A	・全国学力・学習状況調査において「自分には、よいところがある」「将来の夢を持っている」などの自己有用感に関する項目は全国平均に比べても高く、下小岩小の特質の一面といえる。 ・学力を向上させるための反復学習も充実させたほうが良い。 ・九九の暗唱など、学力向上に外部人材の活用してほしい。	・基礎基本を定着させつつ、上位層はベシーッドリルの発展問題に取り組むようにする。 ・定着が不十分な児童には、引き続き九九暗唱テストや反復学習を充実させる。また、学習タイムには担任が対応していたが、今後は少人数指導担当が一部児童を取り出し、指導をする。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・「江戸川っ子 読書科コンクール」の全員参加 ・教科指導で学校図書館の積極的活用 ・公共図書館との連携強化	・実施率100% ・学級で週1回以上の活用 ・年間1回以上の図書館と連携した授業支援	C	C	・週1回の図書館支援員が学校図書館の環境整備を進めている。授業で活用していることが課題。 ・2学期以降に、調べる学習コンクール作品に取り組んでいく。 ・読書科の進め方について校内で共通理解をしていく必要がある。	C	・「読書科」に対する教員の理解向上に期待する。 ・「調べる読書」と並行して、文学にも触れられる機会を充実させてほしい。 ・図書への貸し出しの活発化をし、図書館の積極的活用を推進してほしい。	・全校児童による調べる学習コンクール参加を実現し、探究力の向上を図る。 ・図書委員会による読書貸し出し推進キャンペーンを行い、読書に親しむ機会を提供する。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・全員外遊び(中休みの奨励) ・中休みを活用した運動遊びの取組 ・栄養士による授業を年間1回以上の実施 ・生活リズムウィークの実施	・学級の実施率90% ・年間をとおして全学年実施 ・実施率100% ・年2回実施	B	B	<成果> ・限られたスペースで、工夫して運動することができた。 ・生活指導部と連携を取り、長期休み明けの生活アンケートを行った。その結果をもとに、児童の実態に応じた体育授業の実践を行うことができた。 <課題> ・全員外遊びが100%ではない。100%実施できるよう、担任の指導が必要。 ・体育の授業の見学者が多い。理由は様々だが、「体育がやりたい」と思える授業作りが必要。	B	・スペースの制限を受けないピラティスやウォーキングを実施するなど、生涯体育の観点からも一人で無理なくできる教材の開発が望まれる。 ・体育的学習発表会は、来年度に向け各学年の団体競技について体育部内で精査し、具体的な提案をする。 ・細跳び週間などにより、全員が体を動かすことができる機会を設定する。	
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援教育研修会 年3回実施 ・校内委員会 月1回情報共有 ・エンカレッジルームの教職員の協力体制の構築 ・教材教具や掲示物の工夫、視覚的支援	・実施率100% ・実施率100% ・協力体制表の作成及び随時対応 ・実施率100% ・教員、児童肯定的評価80%	B	B	・研修会を計画していく必要がある。 ・児童の困り感を把握し巡回指導につなげている。新規6名。校内委員会で随時情報共有を行っている。 ・エンカレッジルームの割り振り表を作成し、有効活用につなげている。(巡回、日本語、SC、算数指導)	B	・理解しやすい教材提示、授業展開の工夫への期待。 ・特別支援教育に特化した教材のさらなる積極的活用と開発が望まれる。	特別支援教育に特化した教材や開発についての3回の研修会日程を、担当教員と具体的に決める。
	・持続可能な社会の実現に向けて学びのある教育活動の展開	・江戸川区「SDGsビジョン」「共生社会ビジョン」を活用した授業の実施	・実施率100%	B	B	・「2030年SDGsビジョン」の掲示物は中央階段に作成。3学期の道徳地区公開講座では、区の担当職員を呼び高学年と保護者向けに2100年共生社会ビジョンについての講演を行う予定。その後、掲示物も作成予定。	B	・2学期以降の取組として進捗を注視する。	2学期は、3学期の講演に向けて、担当教員と準備すとも児童向けに分かりやすい掲示物にて浸透させる。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用 ・人権意識向上	・SSWや外部機関と連携を強化し、不登校児童を関係機関と繋ぐ。 ・hyper-QUの分析を実施し、学級経営に生かす。 ・「江戸川区子どもの権利条約」について授業を実施する。	・実施率100% ・QU研修の実施 ・実施率100%	A	A	・不登校については、SSW、サポート教室等の外部機関との連携が100%達成できている。 ・夏季休業明けにQU結果について学年で共有した。2学期の指導に生かす。 ・江戸川区子ども権利条約について朝会講和、校長室廊下に掲示し周知した。	B	・子どもたちはよく挨拶をしている。 ・教職員や保護者、地域の方がよいところを認めて児童の承認欲求を満たしてあげたい。 ・不登校対策については外部関係機関を大いに活用して取組を継続してほしい。	・不登校に対しては次年度もSSW、サポート教室等との連携を100%達成し、複数機関の連携で改善に努める。 ・Q-U実施の継続と学年での共有を学年・学級経営に生かしていく。 ・児童の承認欲求を満たすような言葉かけや関わり方について教職員が学ぶ機会を設ける。
	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・生活指導連絡協議会の活用	・学期に1回、生活アンケート・いじめ関連の道徳授業の実施。 ・いじめ防止研修会の実施。	・いじめ対応の継続事案0。 ・実施率100%	B	B	・継続事案については随時確認する。アンケート後の指導、聞き取りは100%実施した。 ・研修会を計画し実施していく。	B	・統合前の2校の人間関係を深めることでいじめ見逃しのない居心地のよい学校づくりを継続してほしい。	・アンケート後に、しっかりと被害意識のある児童から思いを聞き取ることを100%実施する。 ・生活指導全体会、研修会はいじめ、不登校についての対応や組織の在り方を常に見直していく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・PTA活動、地域行事への参加、HP等による情報公開 ・学校日記の更新を年間100回以上	・HP、連絡メールを活用した、保護者・地域への積極的な情報発信 ・実施率100%	B	B	・学校ホームページの更新の充実による教育活動の積極的な発信ができています。(学期あたり100回超の更新) ・学校施設規模と来校人数を調整しながらの計画的な学校公開の実施していく。	B	・様々な方法を駆使して、学校の情報を発信できている。 ・今後も発表会などの授業、行事の公開に期待したい。	・ホームページでの情報発信を充実さらに充実させる。 ・学校公開、公開行事の計画的な運営を継続する。 ・連絡メールを活用した情報発信を励行する。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年3回 学校評議員会の実施 ・保護者アンケートの実施	・実施率100% ・保護者アンケート肯定的評価80%	B	B	・学期当たり1回の学校評議員会の実施 ・11月後半に保護者アンケートを実施する。	B	・11月後半実施の保護者アンケートは、回収率が高くなるような工夫をほしてほしい。	・アンケートの工夫により保護者の意見を多角的に反映する。
特色ある教育の展開	「生活科」「総合的な学習の時間」における地域の特性を活かした教材の開発	・校内研究で全学年教材の研究、開発	・実施率100%	A	B	・講師の指導のもと、各学年が地域の特性を生かした教材の開発を進め、年間指導計画を作ることができた。 ・各学年、年1回の公開授業を行う予定を次年度に生かすようにした。	A	・生きた教材としての町、地域の参画ができるよう期待したい。	・年間指導計画をもとにした生活科および総合的な学習の時間を実施する。 ・PDCAサイクルを意識した次年度に生かす実践を蓄積する。
	「学校における働き方改革プラン」の取組	・2週間に1回の一斉退勤日の設定 ・業務内容の精選	・年間20回実施 ・学校評価を活用した業務内容の精選、改善。	B	B	・積極的にSSS等を活用し、業務軽減を図っている。 ・経営支援委員会をより活性化させ、全員がチームとして組織運営にあたるなどの意識を高める。 ・随時評価による次年度に向けた校務運営の見直し。	B	・PTAとの協働による教職員の負担軽減案の模索	・一斉退勤日を確実に設定する。 ・教職員の内部評価による業務内容の精選と改善を図る。